

13

豊かで利便性に優れた暮らしづくり推進プロジェクト

概要

地域社会のデジタル化を進めることにより、県民一人ひとりが、希望するサービスやライフスタイルを自由に選択でき、暮らしの豊かさや地域の活力を実感できる取組を推進する
 また、都市公園の新たな利活用、生活交通の維持や充実、空き家対策、利便性・安全性の高い道路網の整備等により、快適で住みやすい環境づくりの取組を進める

重点施策

- 44 豊かさと幸せを実感できるデジタル社会の実現
- 45 快適で住みやすい生活環境づくりの推進

(1) 成果指標の状況・県民実感度調査の結果

成果指標	進捗状況	指標数	主な指標		
	★★★★★ (目標を達成)				
★★★★ (計画を上回る)		2	通学路合同点検に基づく交通安全対策完了率 等		
★★★ (ほぼ計画どおり)		4	Y-BASE における課題解決件数 等		
★★ (計画を下回る)					
★ (計画から大幅に遅れ)					
— (数値が未公表)		3	光ファイバの世帯カバー率 等		
県民実感度調査 (%)	調査項目		そう思う	どちらともいえない	そう思わない
	暮らしを支える道路網の整備や公共交通の利便性向上、都市公園の利用促進など、快適な生活環境づくりのための取組が進んでいる		40.7	24.7	34.6
	デジタルによって地域課題の解決や行政サービスの利便性向上などが進み、社会や暮らしが変わったと実感できる取組が進んでいる		28.4	33.3	38.3

(2) 主な取組と成果

主な取組と成果

- 622 団体、2,750 名が **やまぐちDX推進拠点「Y-BASE」** を利用し、2 日に1 件の割合で新規のDXコンサル申込があり、134 団体 159 案件のDXコンサル・技術サポートを実施。(R4 年度)
(事例) 周南市野犬情報の可視化支援、AI 画像認識とチャットボットを組み合わせた粗大ゴミ判別システムの開発支援、メタバースを活用したオンライン美術作品展の開催支援 等
- 官民連携の **デジタルコミュニティ「デジテック for YAMAGUCHI」** における共創活動を通じた課題解決の取組を促進。
(事例) レノファ山口駐車場プロジェクト、フードバンク広報サイト開発 等
- 交通事故情報や不審者情報など、**住民に身近な情報をオープンデータ化**するとともに、「山口県オープンデータカタログサイト」の機能追加やデータ利活用研修を実施し、官民のデータ利活用を推進。
- デジタル機器の活用に不安のある高齢者等が **デジタルの「楽しさ」や「利便性」を理解**し、より豊かな生活を実現できるよう、市町や事業者が取り組む独自のデジタルデバイド対策を支援。**(延べ 2,200 人以上参加)**

- **手数料を徴収する手続等のオンライン化を推進**するため、やまぐち電子申請サービスにおいてオンライン決済（ペイジー（Pay-easy）R4.10～、クレジットカード R5.4～）を可能とした。
- オンライン手続の利用を促進するため、**誰もが簡単・便利に**オンライン手続を検索できる「やまぐちオンライン手続総合案内サイト」について、デジタル広告による認知度向上を図った。
- 総合交通センター等に出向かずに、スマートフォン等で更新時講習の受講ができる「**優良運転者オンライン講習モデル事業**」を実施。対象者の約 12%にあたる 10,303 人が利用（R4）
- 「**出張型運転免許証の更新手続き**」を山口市阿東地域において試行的に 3 回（日）実施。免許更新手続きや安全運転相談など延べ 10 人が利用（R4）
- 「新たな地域交通モデル形成に関する取組方針」に基づき、ローコストでバス事業者が自らシステムを維持していくことが可能な**バスロケーションシステムの導入モデル**を構築する実証事業を実施
 - 令和 5 年 4 月からバス事業者において本格実装を開始
- 路線バスへの**交通系 IC カードの導入**を促進
 - 導入事業者数 4（R3 年）→ 5（R4 年）
- **県内ローカル線の活性化**や鉄道利用の機運醸成に向け、市町、J R 西日本、国及び県の関係者による連絡会議を開催し、ローカル線の現状や利用促進に向けた取組の状況など様々な情報共有や意見交換等を実施
- 通学路等の生活空間における歩道整備や交差点の改良などの交通安全対策の推進
 - 通学路合同点検に基づく交通安全対策完了率 75%[R4 年度]⇒目標:100%[R4～R8 年度]

(3) 課題と今後の展開方向

課題と今後の展開方向

- デジタル実装による地域の社会課題解決に向け、実装の流れをこれまで以上に速く、より広く拡大することが強く求められており、多くの県民の皆様が、デジタルによって社会や暮らしが変わったと真に実感できるよう、「やまぐちデジタル改革」の取組を、デジタル実装に向けて、さらに重点化を図り、力強く前へと進めていく必要がある。
- 令和 6 年度末にかけて全国で予定されている「オンライン講習モデル事業の全国展開」や「運転免許証とマイナンバーカードの一体化」など、運転免許手続きのデジタル化の確実な実現に向け、全国共通システムの整備や自動申請受付機の導入を計画的に推進することが必要である。
- 交通空白地における持続可能な移動手段の確保に向け、A I デマンド交通等、デジタル技術を活用した新たなモビリティサービスの導入を加速化することが必要である。
- また、沿線住民の日常生活や地域の経済活動、観光振興などに重要な役割を担っている地方ローカル線の維持・確保に向け、沿線市町等と一層の連携の下、利用促進など路線の活性化に向けた取組が必要である。

- 高い利便性が認められている「運転免許証即日交付施設の拡充」に向けて、拡充場所の検討、必要な機器類の整備及び施設の改修等を計画的に進めるほか、中山間地域等で実施している「出張型運転免許証の更新手続き」では、携帯型撮影機システムを導入するなど、実施体制の充実に努めることが必要である。
- 歩行者や自転車利用者等を交通事故から守る対策の促進や、バリアフリー化が必要である。

(参考) 令和5年度の主な新規・拡充取組

新 やまぐちDX加速化事業

「Y-BASE」のサテライト機能を活用した地域DX創出プロジェクトを展開
デザイン思考等により生まれたアイデアを生活の場で実証するリビングラボを実施
官民におけるデータ利活用を促進

新 やまぐちデジタル実装推進事業

地域の課題解決に資する民間企業提案型のデジタル実装モデルを創出

新 デジタル・ガバメント構築支援強化事業

デジタル・ガバメントの構築を全県的に進めるため、市町に対する専門的な相談対応やデジタル実装に向けた伴走支援を実施

新 持続可能な交通システム実現加速化事業

デジタル技術を活用した交通課題の解決ノウハウを有するアクセラレーターを配置し、モデル形成のための伴走支援を行うとともに、導入モデルの周知等を図ることで新たなモビリティサービスの導入を推進

新 地方ローカル線活性化事業

各路線における利用促進の取組強化、観光利用の促進、鉄道利用に向けた全県的な機運醸成の3つのアプローチにより、地方ローカル線の活性化を総合的に推進